

従業者向け

児童発達支援評価表

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションを増やして、個別療育の際の集中して取り組める環境を整える。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		特に支援が必要なこどもが多い時間帯には加配を行うなど、柔軟に対応しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動ごとのエリア（学習、遊び、休憩、移動など）を視覚的・空間的に明確に分け、こどもが今どこで何をするかを理解しやすい環境を
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃は毎日実施し、感染症対策として定期的な換気や消毒も行っている。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		本人の訴えに沿って、部屋の確保・使用を助めている。可動式のパーティションや家具を使用し、児童の特性や支援内容に応じてレイアウトを変更できるようにしています。これにより、限られたスペースでも効果的に活用できる。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間での朝のミーティングを行っている。月に一回の全体ミーティングを行い、目標を職員全員で共有・設定している。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を定期的に配布し、保護者の意向や満足度、ご意見等を把握する機会を設けています。評価表は無記名での回答も可能とし、率直な意見をいただけるよう配慮している。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		送迎時や保護者様を交えた活動を設け意見を聞き、業務に反映している。定期的に個別面談を行っており、話しやすい環境で事業所内での信頼出来るように努めている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	児童発達支援の外部評価を行っている第三者機関やNPO法人、自治体等が実施する評価プログラムの情報収集を行い、信頼できる機関との連携を検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ケース学習や基礎知識の研修を行い、スキルアップに努めている。ネット媒体(e-Learning)の研修を各自隙間時間に行うことができる。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを毎月職員でミーティングを行い決定し、毎月のお便りとして保護者さんたちに配布することで支援の透明性を確保している。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		初回面談や日々の関わりを通して得られた情報に加え、発達検査、行動観察、医療機関や保育園等からの情報提供も参考にし、多面的な視点からこどもの現状を把握している。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期的なケース会議や日誌・記録を通じて職員間で共有し、それぞれの視点から意見を出し合います。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が作成した計画は、関係職員が確認できるようにデータや共有ファイルとして管理し、定例の職員会議やケース検討会議にて内容を丁寧に共有しています。

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	日々の様子や個別療育の中での気づきや日常での過ごし方の記入をアセスメント用紙に適宜行っている。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	本人支援：アセスメント結果をもとに、こども一人ひとりの発達段階や特性に応じた具体的かつ達成可能な支援目標を設定。 家族支援：支援計画の作成時に面談を通して保護者の思いや困りごとを聞き取り、家庭で実践可能な支援内容も盛り込んでいます。 移行支援：保育園・幼稚園・小学校との情報共有や支援会議を視野に入れたスケジュールを計画書に反映。 地域支援、地域連携：必要に応じて地域資源の活用（児童館、図書館、地域イベントなど）を通じた社会参加も支援項目に盛り込んでいます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	毎月のミーティングで話し合いをし決定している。季節行事やテーマ活動、個別課題や小集団活動など、こどもの発達に応じて無理なく楽しみながら取り組める内容となるよう工夫しています。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	活動プログラムが固定化しないよう、こどもの興味や発達段階、季節行事、社会的な出来事などを取り入れながら、常に新しい視点を加えたプログラムづくりに努めています。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別活動で安心できる関係を乗り越えながらスモールステップで課題に解決し、徐々に小規模集団や全体活動への参加に繋がられるように支援している。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日ミーティングを行い支援会議を行っている。 活動の進行・安全確認・個別対応などそれぞれの職員が把握することで、チームとして継続性のある支援が実施できる体制を整える
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	毎日のミーティングで前日の振り返りを行い情報共有、支援内容の見直しを検討している。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	成長療育システムHUGを活用し毎日の支援内容を記載している
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	日々の支援記録や職員間のケース会議での情報共有も活用し、必要に応じてモニタリング期間を待たずに随時見直しを行う体制も整えています。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	日頃から当該児童の支援に直接関わっている児童指導員や保育士など、こどもの特性や日々の様子を把握している者が出席しています。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	サービス担当者会議や関係機関連携会議等には、当該児童の支援状況をよく把握した職員が出席し、他機関(保育園等)と協働して支援方針の確認や課題解決にあたっています。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保育所に訪問し、保育所と事業所での会議を行っています。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			特別支援学校の説明会等に参加し職員と共有している。 サポートブックの作成を行い、共有している。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		職員がセンター主催の地域連携会議や研修に積極的に参加し、関係性の構築と専門性の向上を図る。 地域の児童発達支援センターに対し、事業所の支援体制や相談ニーズについて情報提供を行い、連携窓口を明確にする。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		保育所等を含めた会議を行い交流はあるが 「他のこどもと活動する機会」が出来ていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保育園等での様子や事業所での様子を保護者さんと共有し、どのようにアプローチしていくかを適宜話し合ってお伝えしている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者会の開催を行っている。日常の困りごとの解消や、こどもの行動を理解するほめ方、指示の出し方などの療育スキルを学ぶ、楽しく
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程や支援の方針、1日の流れ、活動プログラムの内容、利用可能な日数や時間帯、送迎の有無などを詳しくご案内し、保護者の理解が得られるよう資料を用いて丁寧にご説明しています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者との個別面談の機会を設け、家庭での様子や困りごと、保護者の思い、こどもに対する希望や目標、こどもの意向などの聞き取り
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者からのご質問やご意見にも丁寧に対応し、必要に応じて内容の修正や調整を行った上で、最終的に同意書に署名をいただいています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に保護者会を開き職員が保護者や保護者対保護者などの悩みを共有できる会を設けている。また、モニタリング時の聞き取りでも
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会や地域参加型のお祭り、ご家族参加型の運動会を定期的に開催している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		公式ラインを設置し相談事を即座に対応できるようにしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS(インスタグラム)等を活用し日々の様子や活動風景を乗せている。 連絡体制等の情報は公式ラインにて発信しています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫にて管理し漏洩を防いでいる。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言語だけに頼らず、視覚的な支援(絵カード、スケジュールボード、写真、ジェスチャーなど)や具体的な物を使った提示、活動に参加できるようにしている。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年に一回地域参加型の祭りの開催や、月に2回地域清掃を行っている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		火災・地震・不審者対応・感染症発生時などを想定した訓練を年間計画に基づき実施し、実践を通じて職員の対応力を高めるとともに
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練・防災訓練を事業所や防災センターにて定期的に行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前のアセスメントにて確認して、起きてしまった際の対応も保護者の方から確認している。また全職員への周知も行っている。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーに関してはまず初めに保護者からアセスメントを取り後に、職員全体への周知を行っている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画には、事故防止・災害対応・感染症対策・不審者対応など幅広いリスクに対応する具体的な内容が盛り込まれており、定期的に見直しも行っていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画には、災害時（地震・火災・不審者対応など）の避難経路や避難訓練の実施内容、感染症対策、緊急時の連絡体制などが含まれており、定期的に見直しを行いながら実効性のある内容としています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書の作成を行い、迅速に職員へ共有している。毎年度、虐待防止に関する研修を実施し、児童虐待の定義や対応の基本、リスクの早期発見、支援者としての関わり方などについて学ぶ機会を設けています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年度、虐待防止に関する研修を実施し、児童虐待の定義や対応の基本、リスクの早期発見、支援者としての関わり方などについて学ぶ機会を設けています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		チャイルドシートの着用字に使うベルトなど使用するものがあるときは、現物を提示して保護者さんに同意を取って行っている。